

銚子七中
学校だより

坂東太郎

令和元年 11月 7日
第 19 号

校長閑話

COUNT DOWN 閉校まであと 510日

一般社団法人
足と靴と健康協議会
Foot, Footwear and Health Association

10月30日(木)6校時に東京よりシューフィッターの木村克敏さんをお招きし、「シューフィッターが教える足の健康と正しい靴えらびのコツ」と題し、講演会を開催しました。シューフィッターとは、靴を選び履くことが健康管理の一翼を担うとの自覚に立っ

て、足に関する基礎知識と靴合わせの技能を習得し、足の疾病予防の観点から正しく合った靴を提案するシューフィッティングの専門家のことです。木村さんは現在「一般社団法人 足と靴と健康協議会 (FHA)」の事務局長を務められ、シューフィッターの養成講座の運営の傍ら、講演活動等も実施されていらっしゃる方で、TBS 日曜9時に放映されたドラマ「陸王」ではシューフィッター村野 尊彦役の歌舞伎役者でもある市川 右團次さんへの演技指導も務められた方です。講演の冒頭では「陸王」撮影についてのエピソードを語ってもらい、本題である、足の健康と正しい靴選びについてはスライド資料を使い、足の骨格や筋肉の付き方、足裏の構造そして正しい靴の選び方等、懇切丁寧に説明をしていただきました。「立つ」「歩く」「走る」のメカニズムは複雑相互に骨格や筋肉が関係しあっていることをしっかりと学ぶことができました。木村さんは、「日本は元来、下駄や草履の文化であったため、靴を履く文化は欧米と比較し、立ち遅れている。その分、靴に対する関心が低いのではないかと。欧米人は1日の生活の中でベッドで寝る時以外は靴を履いている。そのようなことで靴は体の一部として考えられているからこそ、欧米では学校教育の中に靴の選び方や履き方を指導する時間さえもある。」とおっしゃっていました。欧米化された私たちの生活も靴を履くことが多くなってきています。健康維持に大いに関連することであるならば、これから学校でも歯科検診や眼科検診、内科検診同様に「脚足検診」が行われる日はそう遠くはないことと思います。これからは足に注目が集まりそうです。



10月を振り返って

○芸術鑑賞会 3日(木)

1年に1度のライブコンサート。新国立劇場舞台美術センターに招待を受けて、オペラ鑑賞会に行ってきました。今年は豊里小学校6年生の皆さんも合流し、大きな盛り上がりを見せ、現役のオペラ歌手6人の皆様の迫力ある歌声に児童・生徒は終始圧倒されました。これを機会に来年こそは新国立劇場でオペラ歌劇を鑑賞したいものです。

○がん教育実践研修会 18日(金)

6校時に「がんについて正しく理解することができるようにする。健康と命の大切さについて主体的に考えることができるようにする。」ことを目標にした、がん教育授業の実践研修会が千葉県教育委員会の主催で本校体育館で開催されました。県内各地から多くの参加者を集め、がん教育に対する関心の高さを知ることができました。ゲストティチャーとして、日本医科大学千葉北総病院より看護師の方をお招きしたことで、専門的な知識を生徒はより一層深めることができ、授業の最後には、生徒から「定期健康診断の大切さ」や「規則正しい生活習慣の確立」についての感想が述べられました。

○七中祭 26日(土)

七中祭が無事終了しました。今年は例年とは違い、見る者を飽きさせない工夫が随所にされていました。2年生の発表(職場体験学習)では、スライドに寸劇も加わり、合唱発表では1, 2年生の合同発表とし、国語科によるビブリオバトルでは先生の参戦もあり、ダンス発表では男子チームがクオリティーの高いパフォーマンスを披露してくれました。豊里小学校から来校していた6年生も、先輩の演技に驚嘆し、また1日楽しんで帰宅の途についていたようです。

1, 2年生は11月6日(水)に銚子体育館にて市内合同音楽祭へ参加をしました。七中祭での発表以上にさらに素晴らしい出来栄で、堂々としたステージでの発表でした。

